

2025年6月20日 第72回国立大学図書館協会総会 研究集会

「学生のための大学図書館を問い直す: ユーザーエクスペリエンスの視点から」

(3) 話題提供: 国内外の事例(海外)

# アジア・ヨーロッパ・アメリカの 大学図書館ひとめぐり

KYOTO UNIVERSITY

京都大学附属図書館 総務課長  
金藤 伴成 (KINTO Tomonari)

京都大学



# 調査出張 2024.6.6～6.17

## • 目的:

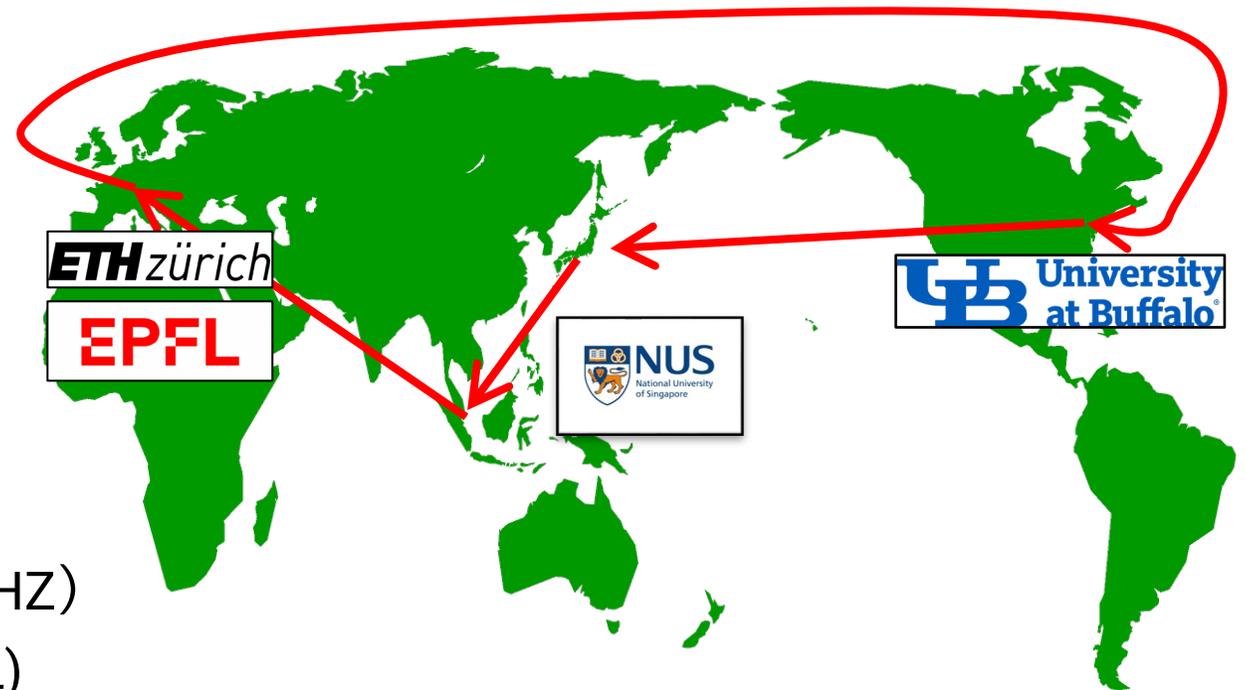
- 『『2030デジタル・ライブラリー』推進に関する検討会』の調査の一環
- オープンアクセス・デジタルライブラリーに関する各国の大学図書館の聞き取り調査および意見交換

## • 調査項目:

1. 蔵書のデジタル化
2. オープンアクセスとオープンデータ
- 3. 場所としての大学図書館**
4. 人材育成

## • 訪問先:

- シンガポール国立大学(NUS)
- スイス連邦工科大学チューリッヒ校(ETHZ)
- スイス連邦工科大学ローザンヌ校(EPFL)
- ニューヨーク州立大学バッファロー校(UB)



# NUS: 静寂空間／アクティブラーニングスペース



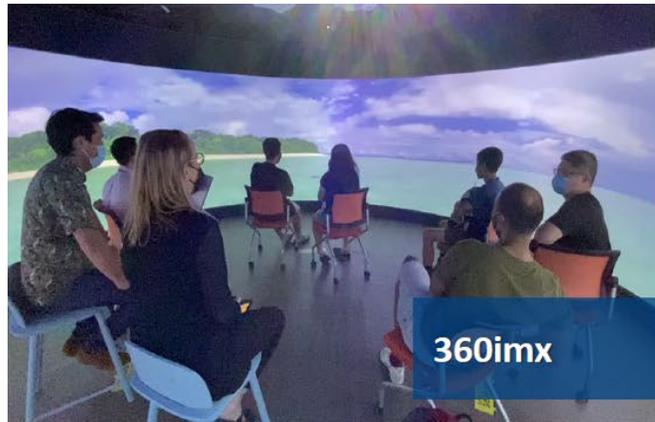
# NUS: 静寂空間／アクティブラーニングスペース



# NUS: 静寂空間／アクティブラーニングスペース



# NUS: Tech Central



360imx



TEL-Imaginarium



Digital Scholarship Lab

## Technology Enhanced Teaching, Learning and Research



Lightboard



Self Recording Studio



Discussion and Project Rooms with Airtime

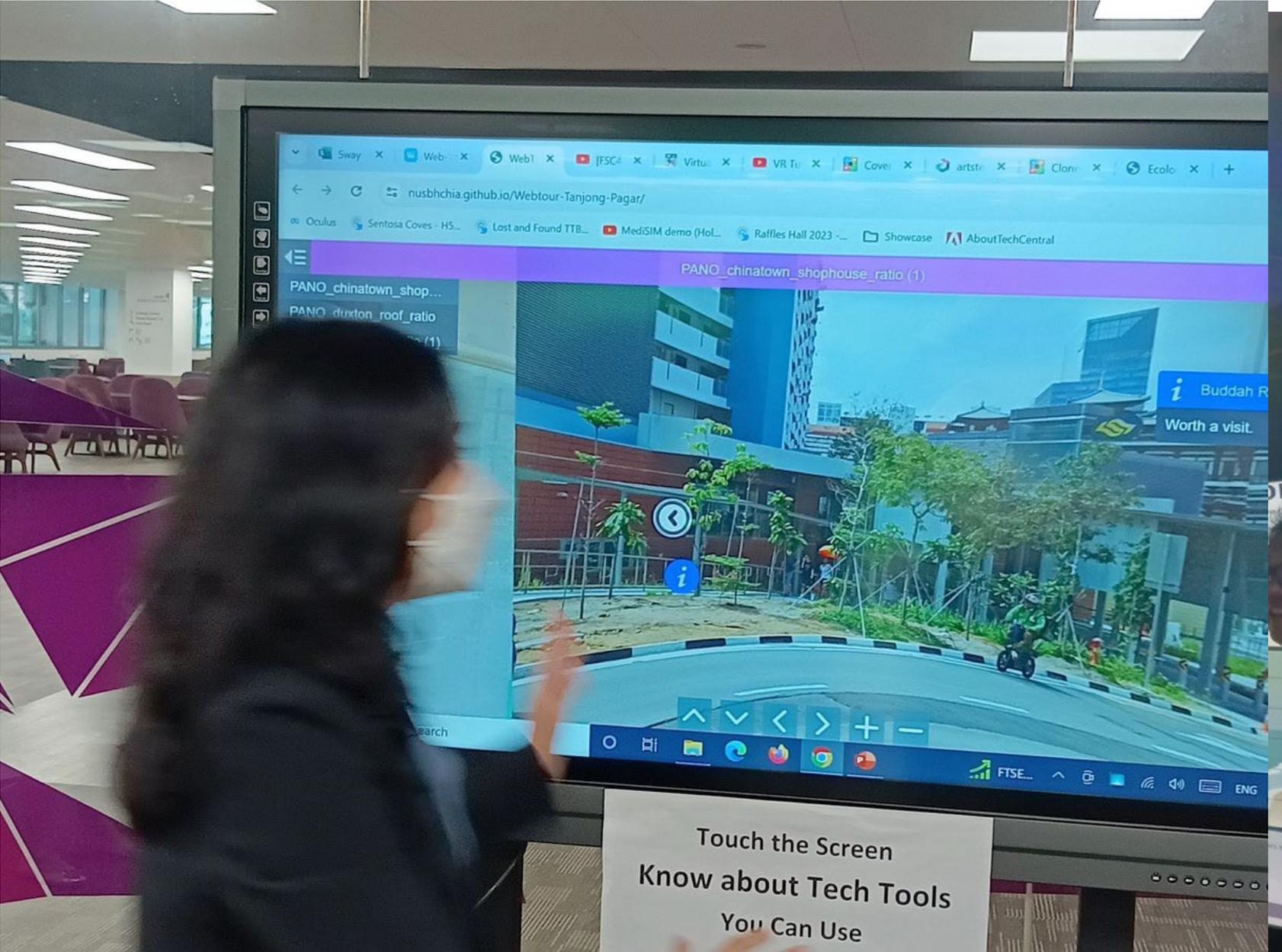
# NUS: Tech Central



# NUS: Tech Central



# NUS: Tech Central



# ETHZ: 個人学習

**ETH** zürich



KYOTO UNIVERSITY

# ETHZ: 個人学習

**ETH** zürich



KYOTO UNIVERSITY

# ETHZ: 小規模ラーニングコモンズ

**ETH** zürich



# EPFL: 印象的な空間

EPFL



# EPFL: 印象的な空間

EPFL



# EPFL: 学生憩いの場

EPFL



# EPFL: 学生憩いの場

EPFL



KYOTO UNIVERSITY

# EPFL:印象的な空間・学生憩いの場



広報誌「国立大学」第71号 2024.3

<https://www.janu.jp/janu/report/koho/kokuritsudaigaku/koho71/opinion71/>

KYOTO UNIVERSITY



# EPFL: 印象的な空間・学生憩いの場

## キャンパスで生まれる出会いと交流が新しいものを生み出す力となる

妹島氏が初めて手掛けた大学関係の建築は2009年に完成したスイス連邦工科大学ローザンヌ校(以下、EPFL)内にあるROLEXラーニングセンター。図書館、レクチャーホール、食堂等が入っている。

(中略)

さらに、ROLEXラーニングセンターのプロジェクトに興味を惹かれた理由には、大学側から提示された「**新しい教育の場とは何かを考え、提案してほしい**」というテーマもあった。このとき**妹島氏が考えたのが、大学は「出会える場」であってほしい**ということだ。

(中略)

ところが、実際にEPFLのキャンパスを歩いてみると、**出会いの場がすごく少ない**のに気づいた。ただ広い空間があり、学生がどこにいるのかわからない。学生にヒアリングしてみると「授業と授業の間にいる場所がない」と言う。研究室に所属すれば居場所はあるが、基本的には毎日授業に来て終わったら帰るだけの日々だ。**「もうちょっと『滞在』できる、気持ちのよい場所があればいいのに」**。そう思ったことが、妹島氏のその後のキャンパス建築設計の原点となっている。

# UB: 紙の本を置かない「図書館」



# UB: 紙の本を置かない「図書館」



# UB: デジタルコンテンツ作成



# UB: デジタルコンテンツ作成



# UB: デジタルコンテンツ作成



# UB: 紙の本を置かない「図書館」・デジタルコンテンツ作成



## It's goodbye, books, as UB library powers up for digital age

By Jay Tokasz Aug 25, 2016 0

1 of 4



# 各大学の取り組み／私たちはこれから何を？

	場としての図書館
NUS	Tech Central 静寂空間／アクティブラーニングスペース ⇒ フロア毎に異なる機能・役割
ETHZ	個人学習 小規模ラーニングcommons ⇒ 伝統的な学習空間
EPFL	印象的な空間 学生憩いの場 ⇒ 新たな発想に基づく図書館空間の新設・大規模な寄附の受入
UB	デジタルコンテンツ作成 紙の本を置かない「図書館」 ⇒ デジタルに特化した図書館・複数設置された図書館毎の機能分化
〇〇大学	

# まとめ・所感

- 「場としての大学図書館」は多様であり、一律ではない
- 所与の条件(地理、歴史、設置形態、組織、財源)を踏まえつつ、社会環境や教育方針の変化に応じ、場としての大学図書館の機能変革を進めている
- 大学図書館の現状把握、変革推進における館長・管理職の役割、リーダーシップの発揮は重要である
- 海外事例の個別の模倣ではなく、各大学における学生(構成員)の学び、成長、将来を見極めながら、大学図書館のあり方の理念化・具体化を行いたい

